

鶴翔 同窓会だより

第 61 号

発行 鶴翔同窓会
〒997-0037 山形県鶴岡市若葉町26-31
山形県立鶴岡南高等学校内
電話(0235)22 0061

印刷 鶴岡印刷株式会社

2020年

令和2年11月1日発行

庄内中学校
鶴岡第一高等学校
鶴岡南高等学校

鶴岡中学校
鶴岡高等学校



「目標を達成しよう Partnerships for the goals」

山形新聞 令和2年5月28日掲載



創立記念式典(7月1日)



入学式(4月23日)

しっかり 大行事は全て体育館で
ソーシャルダンス!



同窓会会長挨拶

第七代会長 齋藤 正 志 (昭44卒・76回)

親愛なる鶴翔同窓会の会員の皆様、ご無沙汰しております。日頃より、鶴翔同窓会並びに鶴岡南高校へのご支援ご協力に改めて感謝申し上げます。

さて、今年度は国難とも言えるコロナ禍の中、多方面において大変な状況にありますが、母校においてもこの時局の対応に苦慮されている事と推察致します。同窓会の皆様におかれましても、無事にこの難局を乗り切って頂きたいと思います。

この非常事態に当たり、今年度の方針を以下の通りに決定し、ホームページにも記載致しました。

1 創立記念事業

式典は学校教職員・生徒のみで行い、記念講演、祝賀会は実施しない。

2 鶴翔同窓会総会

ホームページに記載し、事後承認して頂く形式にさせて頂く。

3 創立133周年実行委員会

来年に延期し、133周年と合同の委員会を構成する。また40、30、20卒年同期会は、本年度は原則行わない。

4 同窓会だより61号

11月に発行予定とする。

5 各会、支部総会等への出席

本年度は全て出席しない。

この様に同窓会活動は、休止状態ではありますが、中高一貫校の計画は



現校舎全景 (平成5年)

2024年度開校予定で準備が進められております。定員も発表され、中学3クラス99人、高校普通科6クラス200人と理数科2クラス80人の規模との事です。スムーズな移行を期待したいと思います。

来年度はコロナ禍も終息し、例年通りの同窓会活動が行えます事を祈ってやみません。次年度の創立記念日に皆様とお会いできるのを楽しみにしております。

最後に、会員の皆様のご活躍とご健勝を祈念致しまして、同窓会会長挨拶とさせて頂きます。

コロナ禍での学校の対応

今般の新型コロナウイルス感染症につきましては、県教育委員会の通知に基づき、本校では以下のように対応・対策を行って参りました。

◇令和2年3月1日(日)より学年末・学年始休業終了まで臨時休業

生徒は基本的に登校禁止、部活動等の諸活動も禁止となった。

◇3月1日(日)卒業式

卒業生、教職員のほか、PTA代表、在校生代表のみの参加とし執り行った。

◇休業期間中は、学習や課題等の指示や諸連絡等は、電話や緊急メール、郵送等で行った。また、3月5日(木)

を登校日とし、2時間程度ホームルーム等を行った。卒業生には、感染防止対策を行った上で、個別に進路指導を実施した。

◇修了式、離任式は実施せず

在校生は、3月23日(月)を登校日としたが、修了式、離任式は行わなかった。また、入学予定者には、3月25日(水)に入学予定生徒のみで短時間のオリエンテーションを実施した。

◇3月25日(水)から県の通知により生徒の活動が一部認められ、在校生の登校を認め、部活動等の諸活動も通常の活動とは異なる活動として再開。

◇4月6日(月)から県の通知により再び生徒は登校禁止、部活動等の諸活動も行わないこととなった。また、学年始休業後も引き続き臨時休業延長となった。

◇4月22日(水)1学期始業式
三密を避けるために体育館で行った。

◇4月23日(木)入学式

新入生及び教職員のほか、在校生代表、PTA代表、それに新入生保護者は各家庭1名の参加とし体育館で執り行った。

◇その後5月17日(日)まで引き続き臨時休業

この間、各学年2回程度の登校日を設け、健康状態の確認や生活指導、学習指導等を行った。

◇5月18日(月)から各学年ごとに週3日、1日3時間の授業日を設定した。
◇5月25日(月)から通常の授業を再開

電車通学の三密回避のために、山形県では時差通学を導入し、田川地区でも、7月3日(金)まで実施。この間は、3週に1週、始業時間を60分繰り下げて授業を行った。

◇部活動

6月1日(月)から段階的に活動を



対面式 (5月25日)



校長挨拶

第三十五代校長

坂尾

聡 (昭55卒・87回)

同窓会の皆様には常日頃から母校の発展のために、絶大なご支援を賜り厚く感謝申し上げます。

このたび、石川真澄校長先生の後任として赴任いたしました坂尾と申します。私事で恐縮ですが、昭和63年4月から7年間を数学科教諭として、平成26年から2年間を教頭として勤務させていただきました。こうして三度母校に勤務できることは、この上ない喜びであります。責任の重さに身の引き締まる思いです。皆様方の素晴らしい功績を汚さぬよう努力してまいれる所存ですので、どうぞよろしくお願いいたします。

昨年度の本校生徒の状況は、皆様のご支援のもと、期待に応えあらゆる場面で大いに活躍してくれました。卒業生の進路状況は、国公立大学の現役合格者数は123名であり、京都、一橋、大阪、名古屋各1名、東北10名、医学部医学科2名と難関大学にも合格しております。私立大学も早稲田2名、上智1名、明治8名、同志社3名などのべ252名が合格しており、SSH等での先進的な実践を活かした本校の強みを十分に発揮し頑張ってくれたと思います。また、部活動においても熊本で開催されたインターハイに、アーチエリート部の女子団体と男女個人、水泳部の男子(1500m自由形)が出場しました。文化部では科学部が全国高等学校総合文化祭佐賀大会に出場し文

化連盟賞を受賞しております。今後も、校是である「文武両道」を大切にして、生徒の育成にあたってまいりたいと考えております。

令和2年度の入学式は、新型コロナウイルス感染症予防対策のため、参加者を保護者のみとして4月23日に体育館で執り行い、新入生193名を迎えました。また、7月1日の創立132周年の式典も、出席者を在校生と教職員に限定して体育館で開催させていただきました。例年であれば、同窓会長様のご祝辞や鶴翔会館に響き渡る校歌の大合唱など、同窓生の母校に寄せる熱い想いを肌で感じる事ができる貴重な機会となっておりましたが、今年はそのような機会を失ったことは大変残念でございます。

皆様ご存知のように令和6年4月に本校と鶴岡北高等学校が統合し、庄内地区中高一貫校(仮称)としてスタートすることになっております。7月には「山形県立庄内中高一貫校(仮称)教育基本計画」が策定されました。地域の方々の本校に寄せる期待と、諸先輩の母校に寄せる熱い想いをしっかりと受け止め、輝かしい歴史と伝統を一層発展させるため、生徒と教職員が一丸となって邁進してまいりますので、今後とも変わらぬご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。皆様のご健勝と鶴翔同窓会の益々のご発展をご祈念申し上げます。

再開。現在も、通常の活動とは異なる活動として行っている。夏までの大会は、運動部、文化部とも、基本的にすべて中止。一部の競技で代替大会が行われた。秋以降の大会に関しては、競技団体毎に開催の可否や内容を判断することになっている。

◇長期間の臨時休業への対応

授業時間の確保のために、従来実施していた火、木曜日に加え、水曜日にも毎週7校時授業を行うこととした。夏季休業を約2週間、年末年始休業を約1週間短縮。これらの対応により、授業時間は例年並みに確保できている。ただし、長期休業中に行っていた講習の時間が確保できなくなったので、その分も含めた指導を各教科で工夫しながら行っている。

◇南高祭(今年度は体育祭)

球技大会と合わせて7月29日(水)、30日(木)に2日間連続で実施。参加は生徒と教職員のみとし、内容を工夫し、感染対策を十分に行い開催。



サッカー代替大会 (7月18、25日)

◇南工定期戦 今年度は中止。

◇感染対策

授業や部活動等の諸活動では、三密を避け、マスクの着用、毎日の検温や要所の消毒などの感染対策を行っている。

◇夏季休業短縮に伴う授業中の暑さ対策

冷房設備のない1、2学年のホームルーム教室にレンタルのスポットエアコンを設置。



離任式 (7月31日)

コロナ禍での対応により、さまざまな制約がある中で、生徒諸君は一所懸命に今できることに取り組んでおります。

同窓生の皆様には、このコロナ禍の中で、本校の教育活動に対し、ご理解ご協力と温かい励ましを賜り、誠にありがとうございます。今後とも状況に対応しながら教育活動を推進して参りますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。

全日制教頭 砂田 智

北海道のあのときの奮闘を伝える

～医療現場の最前線から～



大森由美
(昭59卒・91回)

未だ終わりの見えない新型コロナウイルス感染症。日常の当たり前のことが当たり前でなくなり、会いたい人にも会うことが難しくなり、すでに半年が過ぎました。北海道支部鳴鶴会事務局幹事の大森由美さんは、看護師として北海道の患者の長距離移送に携わっておられます。

1 はじめに

12月、中国武漢で報告された新型肺炎は「COVID19」と名付けられ瞬く間に世界中に拡散しました。日本でも1月の末に初めて感染者が報告され、さらにダイヤモンドプリンセス号の乗客の中で感染が確認されると、毎日ニュースはコロナ一色。北海道では2月の雪まつり後に全国に先駆けて感染者が増えていき、2月末には北海道知事が独自の緊急事態宣言を出しました。私達の生活は一変し、当然県人会どころではなく同窓会も卒会も中止。収束の兆しが見えないこの半年間で私が体験してきた事をまとめたいと思います。

2 マスクが買えない

医療現場では2月の初めにはマスクが手に入らなくなり、程なく消毒用のアルコールも全く買えなくなりました。そればかりか防護用ガウン、手袋、ガーゼ、体温計、あらゆるものが市場から消え、転売合戦がエスカレート。最前線の現場ですらマスクは数日間再利用、ガウンはゴミ袋で手作りというまるで戦時中のような物の無さ。(ある意味これはコロナとの戦争かもしれないが。)

隣国台湾では政府が即刻医療備品を差し押さえ、マスクも国民に平等に行き渡るようにコントロールしていました。その時使われたのがマイナナーに相当する番号だったのですが、日本のそれは全く役に立たない事をこの時

思い知りました。

私も手持ちのサージカルマスクを大事に使うために、プライベートでは友人が作ってくれた布マスクを使う事になりました。

3 相談ダイヤル受電とコロナ鬱

転院控えが始まり搬送の仕事が激減したので、私は4月から保健所の相談窓口の受電のアルバイトをするようになりました。地域の基幹病院や老健でのクラスターの発生で、一日数百件もの電話を9人に対応していました。そのほとんどは連日のコロナ報道に煽られ、必要以上に不安を感じる市民でした。

当時、日本の方針は患者数のピークを後ろに持っていく、重症者の命を救う事に主眼を置いていました。そのために誰でもPCR検査を受けられるわけではなく、時に罵声を浴びせられる



ステイホームの最中でも転院のため飛行機で移動。



転院のため外に出たタイミングでの面会。たとえ家族であっても、これが最後の面会になることも。

がら電話対応をしていましたが、結果的にはそのやり方は奏功したのではないでしょう。老健でのクラスターは「命の選別」として散々テレビでも叩かれました。実際にはそもそもどこも受け入れてくれない重症者の多い老人施設で、しかも徘徊する認知症の方々が多いとゾーニング自体がうまくいきませんし、看取りの患者さんを受け入れる急性期病院もあります。密着度の高い病院や老人施設では、いつクラスターが起ころうともおかしくない環境でみんな働いています。一様に責め立てる理解のない報道には悲しい想いがあります。

一方、8月末現在では、精度の低い独自のPCR検査を行う会社やCOCO A接触アプリの不具合に関する相談が増え、それらが現場を一層混乱させていると感じます。

4 コロナ禍での転院

ステイホームで外出自粛が続く中、どうしても「今」市町村をまたいで移動しなければならぬ理由のある患者さんもいらつしやいました。厳戒態勢の病院からの転院は、病院に一步も入る事を許されず、時に玄関の外で引き継ぎをしたこともあります。非常事態宣言下、海を越えての移動は、空港も機内もソーシャルディスタンスは十分にとれていて、むしろ私達には好都合でした。

面会制限で、家族であつても面会が叶わない中、移動中のどこかのタイミングで面会の機会を設ける事も多かったのですが、厳選した少人数で短時間というルールは譲れず、これが最期の面会となるであろうケースには複雑な思いでした。

友人は、終末期を迎えた母親について「何かあつたら連絡します」と言われ、面会を許されなかったそうです。たとえ臨終に立ち会えたとしても、今、意識があるうちに会えないと意味が無いのです。

そして、発熱と体調不良でコロナではないかと恐れるあまり、受診できずにいた方もいました。(当時は医療施設の受診拒否もあつた)友人の娘さんは、やっと病院に行くことができた時に進行癌が発見され、今も闘病中です。

コロナに気を取られるあまり、人間としての本質が置き去りにされるころが、コロナの一番恐ろしいところで

はないかと思っています。

5 スポーツ大会再開

オリンピックが中止になり、甲子園もインターハイも国体も全て中止になりました。

8月になりミニ甲子園が行われると、様々なスポーツの大会も感染予防に気を付けて地方単位で行われるようになりました。北海道でも私がここ数年、救護待機を務める水泳の大会が始まりました。感染防護策を徹底しようと思えばするほど、役員の手が足りなくなり、肝心なところで抜けてしまうというジレンマ。体調不良を押して参加する選手はいなくなったので、救護室に来る選手は激減しました。

一方、部活動や寮でのクラスター発生に対する過激過ぎる報道。どんなに気を付けていてもゼロリスクなど無いのです。

思慮を欠いた報道によって人々に過剰な恐怖を与え、子供達の学習やスポ



厳戒態勢で水泳の大会もスタート。

ーツの機会が奪われる事はあつてはならないと思っています。

6 病院の引越し

8月、コロナ禍以前に決定していた重度心身障がい児者病院の閉院に伴う長距離転院移送にも携わりました。

家族から感染拡大による感染リスクへの指摘を受けながらも、感染予防管理を徹底しながら、4日間で200人弱の患者さんを片道250キロにも及ぶ距離を移送しました。



病院の引越し。隊列を組んで長距離移動中。

業者は全員PCR検査を受け、当日は運転席と患者さん側はビニールで仕切りを作り、乗り降りのちよつとしたリフトの操作以外は一切患者さんと医療従事者に近づく事なく、病院側のスタッフも靴を履き替えて消毒した車に入るといふ徹底ぶり。患者さんにとつても私達にとつても過酷な日程でしたが、無事に終える事ができました。

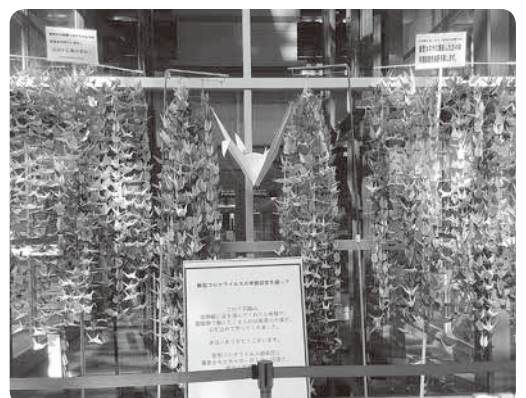
7 総括

多くの全国の同業者さん同様、私達

も陽性者の搬送を請け負っています。

私達は防護服で接しますが、患者さんの多くは軽症者で普通に動ける方。そして一様に「ご迷惑おかけしてすみません。」とおっしゃいます。彼らがどんな悪い事をしたのでしょうか？誰でも感染リスクはあるのに、なぜ彼らはこんなにも肩身の狭い思いをしなくてならないのでしょうか？そんな時私達も「こんな格好ですみません。」と答えます。

先日(8月末)、やっとコロナの危険度2類相当を見直す動きが出てきました。感染者はゼロにはならないでしょう。感染者ゼロを目指して大勢の無症状の人にPCR検査を行って、市民生活を萎縮させる事が適切なのかどうか、これからの「ウィズコロナ」をどう生きるべきなのか、転換期を迎えていると感じます。



運休中の国際線スタッフがコロナの終息を祈って折った新千歳空港の千羽鶴。

お久しぶりです!!

各地で活躍の会員から

「やらまいか」の郷、

浜松を想う



成澤 孝夫 (昭40卒・72回)

鶴岡Uターン生活
10年目、時の流れの
早さに驚きながらも
泰然自若の日々を過

ごしております。学生時代も含め故郷を離れた45年間の中で、最も長い浜松市での37年間のサラリーマン生活はこれまでの人生に多くの変化と感動を与えてくれました。四季を通じて温暖で過ごしやすい自然環境は、冬でも全く雪が降らず鶴岡とは異文化的環境の地でした。そんな自然環境も大きく影響している浜松人気質は、良く耳にする遠州の「やらまいか」精神そのものです。何事にも積極的に取り組み、ギブアップを知らない究極志向の姿勢は遠州地方の温暖な気候や徳川家康を城主とした歴史的背景、それに東海道の要所から来る経済的に良好な環境等々が主な要因となり形成されているものと考えます。多くの世界的企業が名を連ね、向上発展の命題の下、自由闊達な議論が日常的に行われている環境は特筆すべき点です。そんな工業製品優位な一方で農業人口数は一万一千人を有し日本一を誇りにしています。その他



鶴南吹研定期演奏会にて

文化活動も含め多くの分野、領域での活動も盛んで「やらまいか」精神の根強さが窺われます。奇しくも鶴岡のユネスコ食文化創造都市認定と同時に、長きに亘り楽器業界人としても関わりがあった浜松市が音楽文化創造都市に認定されたことで、私にとって鶴岡に勝るとも劣らぬ魅力的な地となっています。

鶴翔が繋いでくれた縁

山口 大樹 (平11卒・106回)



障害者就労継続支援事業を行っている
月山福祉会で勤務しています。障がい

持つ仲間たちと共に活動し、日々新鮮

な発見や理解しあえることの喜びなど心地よい刺激を受けながら日々を送っております。

15年程京都にある大学の中で青春をかけて研究をしてきました。夢破れて鶴岡に戻ってきたのは2017年、全てはつたらかしにしていた。鶴岡での自分、その清算が一気に来たような感覚で、当時は自分の存在の希薄さに途方に暮れていました。生まれ育った町なのにゼロからの出発。鶴岡で生きていくために、来る話は断らず全て引き受け、その都度自分なりの努力を重ねました。色々やりました。「選挙の手伝い、本の執筆、古本の露店、落語、教育ボランティア」。悪食のナマズのように色んな方面へのチャレンジは沢山の人の出会いを齎してくれました。鶴岡に帰ってきてから此処までの時間は多くの人たちに助けてもらい、目をかけてもらい、様々なことを教えてもらい、感謝してもきれません。偶然ですが、お世話になった方達の多くが



コミュニティしんぶん 2019年6月7日号より

子どものペットコレクション

本間 明 (昭56卒・88回)



昭和56年卒の我々も、現役を退くまであと数年。そんな中、コロナ禍が巻き起こり、あつという間に世界の様相を一変させる大災厄となってしまうました。私も行政の一端に身を置く者として、コロナで疲弊した農林水産業の振興に微力を尽くす毎日です。

ところで我が家では、末っ子の動物好きが高じ、玄関ホールが爬虫類・両生類・鳥類・昆虫類の展示場という有様となっています。数え上げればフトアゴヒゲトカゲ、ヒョウモントカゲモドキ、イエアメガエル、クランウエルツノガエル、アフリカウシガエル、キンカチヨウ、大型ガの蛹という賑やか

さです。

元々は犬猫の代わりにと、軽い気持ちで一匹のカナヘビ（小型のトカゲ）の飼育を許したことから始まったものですが、子供にせがまれるうちにこれだけ増えてしまいました。その数は今も増殖中で、つがいで購入したキンカチヨウは呆れるほど繁殖力が旺盛で、ポロポロと卵を産んでは孵化し続け、今も2羽の雛が育っています。

私は一切ノータッチですが、子供がトカゲやカエルに生餌（ゴキブリやコオロギ）をピンセットで与えるとパクッと食べる様子は、傍で見ても可愛いものです。

しかしながら、次第に玄関が飼育ケースや鳥籠で圧迫され、昼夜を問わず飼育用照明が煌々と灯り、更には得体の知れない臭気が漂うに及んでは、これが限界と思わざるを得ません。そんな親の気持ちを知ってか知らずか、子供はペットショップで喜々として新た

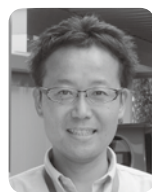


ヒョウモントカゲモドキ

なアイテムを物色しており、不安が募るこの頃です。

腐れ縁、されど縁、深き縁

石井 康記（平3卒・98回）



恐らくこんなクラスは他に類を見ないのではないのでしょうか？

私の卒業時のクラスは在学中から大変仲が良く、いろんな意味で「名物クラス」だったと言われます（ここでは書けないことばかり）。そしてその仲の良さの特異性は卒業して三十年経とうとしている今でも続いているのです。まず、五年おきに宿泊付きのクラス会を行っています。これまで五回完遂です。そしてその度にオリジナルTシャツを作製し皆で着ています。

さらに、卒業十年目くらいからは毎年盆と正月、一回も欠かすことなく旧友たちが集まる機会を作っています。最近では参加者も少なくなりつつありますが、全盛期はそれぞれの子どもたちも合わせると二十人を超える参加者となっていました。メンバーが固定されてきているのが実情ですが、それが約二十年続いているのは特筆すべきことと自負しております。

卒業三十年。皆、それぞれの道を歩んでいます。それぞれにいろんなことがありました。皆、責任ある立場で社会に貢献しています。

今、コロナの渦中で我々の「つどいの場」が奪われつつあります。南高でたまたま出会ってしまった関係が「多生の縁」とは言い過ぎかもしれませんが、これまでつなぎ続けてきた縁は一生消えません！たぶん：



ニューノーマル

難波 将也（平13卒・108回）



ステイホーム。以前より自宅で過ごす時間が増えました。断捨離をしたり、DVDやたまった録画を観たり、じっくり通信講座に取り組んだり、それなりにすることに欠きません。

それからYouTube。在宅トレーニングの動画をきっかけに、様々なジャンルの配信を観るようになりました。この「在宅トレ」もそうですが、彼らは社会のニーズを素早く捉えて共感を

得るのが上手だなと感心しながら、見事、アラフォーの新たな暇つぶしツールにもなったわけです。

肝心の体型はというと、人生最大級だった体重は7kg減、体脂肪率も16%台まで改善。（決してそれに照準を合わせたわけではない）会社の健康診断も無事クリア。自重トレーニングだけでも効果が出るもんだなとうれしい発見です。雨が降っている間に、ついで感覚で前向きに暇をつぶしていたら、良い具合に地が固まってくれました。

ステイホーム。いつかやろうと思っていたことを「ならばこの機に」と考えた方は多いかもしれません。「創造的休暇」とまではいかなくとも、制約が機会となって新たな価値観に触れられれば、それだけでも十分創造的です。発想を転換してみるという習慣そのものが、すなわちニューノーマルなのかもしれません。



恩師からのたより

①本校在職期間 ②専門教科・部活 ③思い出や近況、メッセージ等



佐藤 晃先生
(昭33卒・65回)

①教諭 昭50・4〜平元・3
校長 平8・4〜平12・3

②英語

③「苦学生」という言葉は死語になったかと思ったらこのコロナ禍の中にあつて学生も一層経済的に苦境にたたされていることを思うと心が痛む。

私は、大学時代は生活費を得るために年中アルバイトを転々とした。就職した最初の会社につまずいてからは3年間で6つの企業を渡り歩いた。最後の会社が米国との合併会社でようやく語学が生きた。2年間勤め、家庭の事情で帰郷しなければならなくなった。7年間の東京生活は総じてグレイなものであったと思う。



初任校に赴任して、長年地中であつた種子が一気に開花したような昂揚感があり、何をするにも毎日が楽しく達成感があつた。卒業後は殆どの生徒が社会人になるクラスでは授業の中で、東京生活の苦しさや失敗に触れると生徒の目が光つた。あの苦しかった時代は無駄ではなかったと思つた。

鶴岡南高に転任してから尺八を習い始めて45年になるが、職歴の異なる仲間との交流や舞台、施設訪問は得難いものである。また、鶴岡市にある20の国指定重要文化財の一つが「カトリック教会天主堂」。その百十五年の歴史を持つ建造物を更に末長く保存する事務局を担当して見守っている。

80歳を過ぎた時、恐れている認知症予防に最適だと社交ダンスに誘われた。「事を始めるのに遅すぎることはない」と実感している。これら三本の柱が今の私を支えている。



菅原 直香先生
(昭38卒・70回)

①昭43・4〜昭58・3

②国語

③私は一九六八(昭和43)年4月大学を卒業すると同時に、国語の教員とし

て母校に赴任し、一九八三(昭和58)年山添高に転勤するまで、15年間お世話になりました。専門の分野は中国の古典ですが、漢文は勿論、古文、現代文も全て担当しました。

当時のことを上手に想い出すのは至難の業ですが、授業や部活をはじめ、体育祭や球技大会、信州への修学旅行など、生徒と共に活動した楽しくそして忘れられない数多くの思い出が脳裏をよぎります。

特に、強く印象に残っているのは一九七九(昭和54)年に導入された、大学の共通一次試験でしょうか。担任していた生徒が、丁度その第一期生に当たり、二次試験の出願を前に、連日深夜まで、乏しい資料の中、検討会を開いていたことを憶えています。

山添高勤務の後、余目高(現庄内総合高)での全国8番目、県初の総合学科の設置と校名の変更、更に、鶴岡高校の閉校と鶴岡中央高校の開校など、新しい教育改革の真只中で、様々の貴重な体験をさせていただき、二〇〇五(平成17)年3月に酒田西高を最後に定年退職しました。

現在は、NHK文化センターや生涯学習施設「里仁館」また、公民館やコミセンを会場に、中高年の方々と一緒に、漢詩、論語、史記など中国の古典を読み、古典の持つ魅力やこころを学びながら、穏やかに愉しく余生を過ごしています。



門脇 道雄先生
(昭45卒・77回)

①平元・4〜平14・3

②英語・バドミントン部・英語部

③初任校の山形西高から北村山高を経て、山形市から妻・息子・娘とともに故郷へ戻り、鶴南に奉職したのが平成元年。以来、在学時代を含めれば十六年間お世話になり、鶴南は人生の古里となっています。

「質実剛健・自由な校風」は噂には聞いていましたが、教員は各教科室で仕事をし、施設することなく事故もなく、職員朝会もSHRもなく、勤務開始時刻から授業が開始され、放課後にすぐ部活動が開始されるという、効率のよい体制と生徒たちの自主的な活動に驚いたものです。生き生きとした生徒たちには教員も大いに感化され、たとえば岩手県への研修旅行では、生徒の自主自律を尊重し、指図や命令を排して規律や時間を守るやり方を徹底させ、旅行団長の金森校長に「初めてこういう指導を見た」と言わしめたほどです。

定年退職してからは、山形県詩人会副会長を拝命し、文芸講座やサクソフオンやフルートなど音楽教室の講師を務め、文学と音楽に明け暮れております。鶴岡市立朝陽第四小学校と鶴岡市立豊浦小学校の校歌の作詞を依頼されたり、高山樗牛賞を拝受するなど、思いがけない僥倖にも恵まれました。ま

だまだ進展半ばであり、今年は十九冊目の著書を出版します。鶴南の伝統である前へと進む自主的自発的な姿勢は、教員の我が身こそが鍛えられたように振り返っております。



土岐 秀昭先生
(昭48卒・80回)

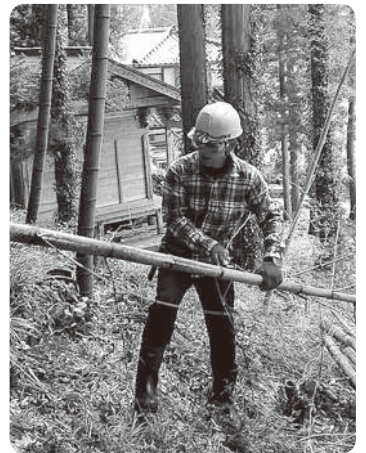
①平13・4～令2・3

②公民・陸上競技部

③母校での19年間で最後に、教員生活を終えました。2月末に、新型コロナウイルスの流行により、全国一斉の休校要請があり、修了式も離任式も無くなりました。区切りを付けないまま、最後を迎えることになりました。残念でした。

以前から、退職後に取り組むことを三つ考えていました。一つ目は、今まで怠っていた神職の研修を受講することでしたが、新型コロナウイルスですべて中止。二つ目は、孟宗竹の林を整備することで、チェンソーを買って実現しました。三つ目は、庭木の手入れでこれも庭師と一緒に成し遂げました。

さて、部活動では陸上競技部の顧問として、2名の生徒の全国大会3位入賞に立ち会うことができました。短い練習時間を有効に使い、目標を明確にして頑張る部員達に眩しさを感じました。また、平成17年から学年主任を務め、生徒達に「自ら学ぶ力」を付けてくれることを求めました。与えられた



ものを只こなすだけでなく、今の自分に必要な学びをしてほしいと考えました。彼らは大いに奮起し、国公立に過去最高の151名が合格しました。

本校は、中高一貫校として生まれ変わります。経験したことのないことが次々に起こる時代です。叡智と勇氣を持って、逞しく生き抜く人財の輩出を期待します。



菅原 律先生
(昭53卒・85回)

①平25・4～令2・3

②養護教諭・JRC同好会

③貴校には養護教諭として7年間お世話になりました。在職中は、教職員の皆様や家族のお陰をもちまして、母校で無事定年退職を迎えることができました。感謝申し上げます。私自身、大変勉強になり、充実した日々でした。勉強や部活動にひた向きに努力していた生徒の姿が心に残っております。

普段の授業中の「静」の集中力を一気に「動」へと転換する生徒の弾けるパワーに青春の素晴らしさを感じました。中には、保健室で一息ついてから教室へ向かう生徒もいましたが、今は各々の青春を謳歌していると思います。

部活動では、JRC（青少年赤十字）同好会の顧問として、3名の生徒と共に、休部状態から30数名まで復活することができました。自分達ができることから地域へと年々その活動を広げ、7年目には「鶴岡市民憲章青少年実行顕彰表彰」をいただくことができました。お世話になった地域の皆様にも感謝申し上げます。

4月からは、農作業を手伝いながら、夫と共に野菜を作り、消費者の皆様にお届けしております。

コロナ禍の中、何かと慌ただしい世情ではありますが、貴校の益々のご発展と皆様のご健勝をお祈り申し上げます。



阿部 隆幸先生
(平元卒・96回)

①平12・4～令2・3

②芸術（音楽）・音楽部

③教員になり、初めは内陸部の工業高校に4年、次に庄内地区の小規模高校に3年の勤務の後、予期せぬ異動で母校勤務を命ぜられました。20年という

長き間、何事にも興味・関心が高く、学力に優れた生徒達、また恩師（担任を含む）と共に教員生活を送れた事は、とても幸せな時間だったと改めて感じています。

赴任して初めのうちは生徒会を担当し、その後3度（9年間）担任を持たせて頂きました。最後の担任では台湾への進路研修、充実した記憶に残る旅でした。

また、部活動では音楽部を担当させて頂きました。特に音楽部の生徒達とは、定期演奏会、コンクール、様々な活動を通して、音楽と向き合う時間を多く持ち、時には喜び、時には悲しみ、様々な経験を共に出来た事は、私の音楽教師人生に大きな影響を与えてくれました。コンクールでは平成18年の全国大会出場をはじめ、東北支部大会に向けて共に頑張った事は、とても大変でしたが充実した日々でした。また音楽部50回記念定期演奏会にも携わる事が出来た事も、鶴南勤務の中で大きな出来事でした。（50回定期演奏会はホールの空調設備が壊れ、フェス状態の演奏会になりました！一生忘れません）

現在、鶴岡中央高校でも合唱部を担当し、少人数ながらも歌う楽しみ、喜びを生徒と共に感じて過しております。これからの鶴南が中高一貫校として、さらなる飛躍・発展されることを願っております。

在校生の活躍

全日本選手権に参加して



三年
渡部 真優

私達は一月に大阪で開催された天皇杯・皇后杯2020年全日本卓球選手権大会のジュニアシングルスと一般ダブルスに出場してきました。シングルスは二回戦、ダブルスは一回戦敗退という結果でしたが国内のトップレベルの選手達と試合することができ、とても良い経験になりました。会場には、オリンピック選手も沢山いて、実際に生で見るプロの方達のプレーはとても迫力があり、学ぶことが多く感動しました。全国のライバル達に比べて、圧倒的に練習できる時間が限られている中で、このように全日本という舞台でプレーできる機会を獲得し、戦えたことを大変幸せに思います。

本来ならばこの全日本で学んだことをチームに還元し、新体制として新たなスタートを切るはずでしたが新型コロナウイルスの影響でそうはいかなくなっていました。二年間インターハイ出場という目標に向かって頑張ってきましたが、前代未聞の事態によりその目標も夢のままで終わってしまい、本当は悲しくて悔しくて言葉にできない感情で一杯です。しかし、今振り返ると、ずっと努力してきたことは決して無駄ではないし、約10年という卓球人生を通して多くのことを学び経験す

全日制・通信制とも多くの大会が中止になりました。

することはできました。決して平坦ではなくむしろ苦しいことや辛いことも沢山ありましたが、卓球に出会って得ることのできた仲間の存在や数えきれない思い出は私にとって一生のかけがえない宝物です。私が毎日全力で卓球に向き合えたのは監督、コーチ、先生、そしていつも支えてくれた家族や仲間がいたからこそです。本当にありがとうございました。応援し、支えてくださった方々に結果として最後に恩返しできず悔しいですが、10年の卓球人生に悔いはありません。これからは卓球を通して学んだことを次の新たな目標やこれからの人生に活かしました新たな舞台で活躍できるように精一杯頑張っていきたいと思っています。本当にありがとうございました。

地理オリピックに参加して



三年
北風 陵汰

この度は、銀賞という成績を残せたこと、そしてこのような文章を書くことができることを大変嬉しく思っております。

私がこの大会について知ったのは、同じ野球部の先輩が銅賞をとったためでした。私は幼い頃から地図を眺めたり、地図のバズルや国旗を当てるゲームで遊んだりするのが大好きで、地理については人一倍関心がありましたか

ら、必ず先輩を超えてやるという思いで一次予選に臨みました。あまり出来は良くないと感じていましたから、二次予選に進めるときいた時には信じられませんでした。仙台で行われた二次予選では、知識だけでなく、考察、提案、記述の力が問われ、さらには英語で答える設問もあるなど、今の若者に求められている能力を痛感しましたが、どうにか銀賞に辿り着くことができました。

地理の魅力は、様々な分野を包含し得る点にあると私は考えています。地理は全ての歴史があつて成り立つものですし、その変化の要因には人的なものや自然法則によるもの、地学的なもの、或いは未知のものも沢山あります。地理は現代の世界に生きていく上での課題を教えてくれる学問です。私はそんな地理が大好きです。これからも関心を持ち続けていきたいと思っています。

最後に、地理を教えてくださいださる先生方、仙台と一緒に闘ってくれた仲間へ、本当にありがとうございました。

清川だしとフェーン現象の研究

科学部顧問 三宅 国彦
全国高文祭で発表

「清川だしとフェーン現象の関係」というテーマで2019年全国高等学校総合文化祭佐賀大会において発表してきました。簡単に研究内容を説明しますと、風が山を越えるときの湿度の関係で山を吹き下ろす風の温度が上昇します。これが「フェーン現象」です。このフェーン現象が庄内地方の狩川付

近の局地風として知られている清川だしに影響していると考え調べたところ、清川だしが吹くときはフェーン現象の特徴を示していることが明らかとなりました。

NHK「やままる」に出演

この内容にNHK山形放送局の方から興味を持っていただき、取材を受け運びとなりました。取材は3日間、1日目は部活動の活動風景、2日目は鶴岡南高校全体の映像、3日目が気象予報士のアダムさんが実際に来校して、研究内容についてのディスカッションの撮影を行いました。取材初日の生徒たちは撮影なのにカメラから逃げていましたが、最終日は堂々と科学部や本校のSSHのこと、研究への思いを語っている姿に彼らの成長を見た気がします。以下は生徒の感想です。

今回の「やままる」の取材はとても有意義な時間でした。自分たちの研究について改めてどうして研究を行ったのか、という部分を深く考えることができました。また、気象予報士のアダムさんの話を聞いて、ヒートアイランド現象やクールアイランド現象など自分の知っている現象がこんなに身近にあるのだと驚きました。鶴岡について再発見できた楽しい経験でした。



文化連盟賞受賞



母校だより

全 日 制

令和元年度の卒業生

197名

令和2年度教職員の異動

(転出)

石川 真澄 (校長・退職)
木村 築 (国語・酒田西高校)
本間 篤士 (地歴・酒田東高校)
土岐 秀昭 (公民・退職)
猪口 俊二 (理科・鶴岡工業高校)
阿部 隆幸 (音楽・鶴岡中央高校)
石井 哲司 (英語・庄内総合高校)
菅原 律 (養護教諭・退職)
齋藤 早希 (保体・常勤講師・退職)
後藤 広 (実習講師・庄内総合高校)
安達 泰浩 (事務部長・村山産業高校)
(転入)



坂尾 聡
(校長・県教育センター)

黒田 陽春 (国語・新庄北高校)
庄司 豊 (国語・酒田光陵高校)
齊藤 和輝 (地歴・新庄南高校)
田口 康平 (公民・酒田東高校)
豊田 彩子 (理科・酒田光陵高校)
松本 光治 (音楽・鶴岡中央高校)
小坂 雄 (英語・鶴岡工業高校)
會田 翔平 (保体・常勤講師・鶴岡中央高校)
土門 和宏 (実習講師・鶴岡工業高校)
佐藤 かよ (養護助教諭・藤島小学校)
藤橋 弘行 (事務部長・県庁畜産振興課)

通 信 制

令和元年度の卒業生

(9月 0名, 3月 33名)

令和2年度教職員の異動

(転出)

高橋 秀典 (教頭・数学・酒田光陵高校)
鈴木 正 (保健体育・非常勤講師退職)
太田 知子 (事務・主査・5/31付退職)
(転入)



田村 裕
(教頭・地歴公民・金峰少年自然の家)

齋藤 早希 (保健体育・非常勤講師)
富樫 由美 (事務・主事)

進 路 状 況

【令和元年度進路状況】

- ①京都大・一橋大 各1名合格
- ②医学部医学科 2名合格
- ③東北大学 10名合格
- ④国公立大学 123名合格

《センター試験》

生徒193名がセンター試験に出席した。5教科900点型で本校平均点は、588・7点。全国平均を40点ほど上回り、県内高校別で2位の好成績となった。

《合格状況》

国公立大学への最終合格者は123名で、在籍数に対しての合格率は62・4%となり、県内進学校の中でも1位の好成績を挙げ、センター試験の高得点を元に上位層は難関大学に果敢に挑戦し、結果を出した。

現役生の難関大学合格状況は、京都大、一橋大、東北大10人、名古屋大、大阪大、東京外語大、国際教養大、医学部医学科2人などであり、近年の好調の流れを引き継ぎ、今年度も素晴らしい結果を残した。過年度生では、国公立大では京都大、東北大、山形大医学

部医学科合格。私立大では、早稲田大、東京理科大学、明治大、立教大、私立大医学部医学科のべ4人など、自分の目標に向かって努力し、見事に結果を出した。

国公立大合格者数の多い大学としては、順に、山形大、新潟大、東北大、秋田大、弘前大、宮城教育大、岩手大、福島大と近隣の大学に多く進学する傾向が継続している。私立大の合格者数はのべ252人。早稲田大2人、上智大1人、東京理科大学2人、明治大8人、立教大2人、法政大4人、同志社大3人など、難関私立大に数多く合格した。

進路指導主事 齋藤 恵美

主な大学合格者数 (現役のみ・延べ人数)

国公立大学	弘前	前	5	私立大学	早稲田	2
	岩手	手	4		明治	8
	宮城	教	4		立教	2
	東北	育	10		上智	1
	秋田	北	6		法政	4
	山形	田	19		東京理	2
	福島	形	3		東北学	15
	茨城	島	2		その他の	218
	筑波	城	2		私立大学計	252
	埼玉	波	3	進路状況		
	千葉	玉	3			
	東京	葉	3	卒業生数		197
	東京	橋	1			
	東京	語	1	進学内訳	国公立大学	118
	東京	芸	4		私立大学	57
	東京	信	2		短期大学	1
	東京	立	1		各種学校等	1
	横濱	潟	14	進学者計		177
	新潟	沢	4	就職者数		2
	金沢	山	2	進学準備等		18
	静岡	岡	3	進路状況		
	名古屋	屋	1			
	京都	都	1			
	大阪	阪	1			
	国際教養	立	1			
国公立大学計	秋田県立	済	3	進路状況		
	新潟県立	済	2			
	高崎の他	他	18			
国公立大学計			123			

田川地区の県立高校再編整備計画と庄内中高一貫校の開校について

県立高校再編整備計画に伴い、本校通信制が令和4年3月に、鶴岡工業高校定時制が令和7年3月に閉課程し、庄内総合高校に新設となります。また、鶴岡南高山添校は令和4年3月に閉校することになりました。鶴岡南高は鶴岡北高と統合し、県立中学を新設した庄内中高一貫校として生まれ変わり、令和6年度に開校します。同窓会も含め具体的な事項につきましては今後検討を重ねて参ります。(詳細は山形県のホームページをご覧ください。)

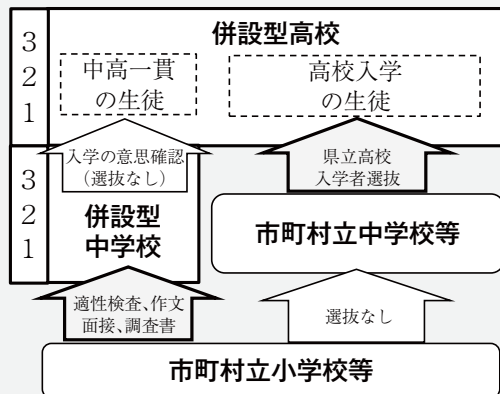
山形県立庄内中高一貫校（仮称）教育基本計画【概要版】

令和2年7月 山形県教育委員会

学 校 の 概 要

- 開校予定年度 令和6年度
- 入学定員
 - ◆ 併設型中学校 99名
 - ◆ 併設型高校 普通科 200名
理数科 80名
- 設置場所
 - ◆ 併設型中学校 鶴岡北高校現有地
 - ◆ 併設型高校 鶴岡南高校現有地
- 通学区域
 - ◆ 併設型中学校・高校 県下一円

庄内中高一貫校（仮称）



基 本 理 念

自主自立

自ら考え、判断し、主体的に行動するとともに、志高く自分自身の可能性を伸ばしていくことによって、自己実現を図る

新しい価値の創造

確かな学力を身に付けるとともに、豊かな人間性を育むことによって、新しい文化・価値観・考え方等をつくり出す

社会的使命の遂行

時代の変化や社会の状況に応じて求められる役割を自覚し、自他を尊重し、協力し合い、社会の平和と発展に貢献する

生徒
像

自主性と自立心をもつ生徒

確かな学力と豊かな人間性を身に付け、新しい価値を創造する生徒

社会的使命を自覚するとともに、その実現に向けて取り組む生徒

学
校
指
導

一人ひとりが、主体性やたくましさを身に付け、夢や希望を実現できる学校

個人としての基盤をつくり、社会変化に応じて積極的に新しい物事に取り組む学校

地域社会や国際社会を牽引する人、支える人を育てる学校

教育課程の特色

◇ 6年間を見通した教育課程

- 高校の学習内容を盛り込んだ学習（中学校）
- 単位制を生かした豊富な選択科目（高校）

◇ 充実した学びを実現する授業時間

- 1週間の授業時数：中学校30時間、高校32時間
- 中学校、高校ともに55分授業

◇ 個に応じた支援

- ICTの活用などによる個別最適化した学習
- 個人の学びを生かした進路の実現

◇ 生徒・教員の交流の促進

- 中高合同の学校行事や生徒会活動
- 中高双方の教員による交流授業

入 学 者 選 抜

《併設型中学校》

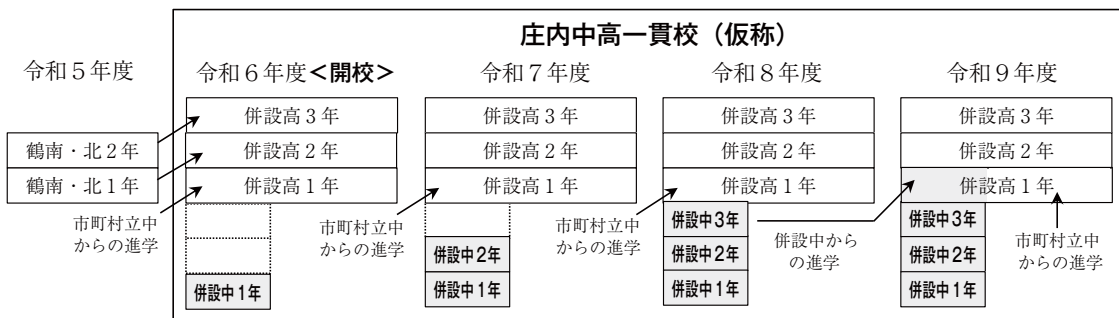
適性検査、作文、面接、調査書により、この学校への適応能力、学ぶ意欲等を総合的に判断します

《併設型高校》

- ◇ 併設型中学校からの進学 : 入学者選抜は行わず、入学の意思確認を経て、進学
- ◇ 市町村立中学校等からの進学 : 山形県公立高校入学者選抜を経て、進学

移行期の対応及び年次進行

- 令和4・5年度は統合するための移行期となり、令和4・5年度の鶴岡南及び鶴岡北高校の入学者は、庄内中高一貫校（仮称）の基本理念を踏まえて編成する教育課程に基づいて、それぞれの高校で学習します。
- 令和5年度から令和9年度までの年次進行は、以下の通り。



道徳、健康教育の充実

- ・教育活動全体での心と体の育成
- ・体育的活動、中学校での給食の実施など

キャリア教育の充実

- ・職場体験、講演会等の実施
- ・高等教育機関等との連携

など

探究型学習の推進

- ・郷土の課題を探究、解決を図る実践
- ・研究機関等との連携による学びの深化

など

理数教育の充実

- ・少人数や習熟度に応じた授業
- ・豊富な実験や観察
- ・SSH指定の継続

など

グローバル教育の充実

- ・豊富な言語活動
- ・海外での研修
- ・ICT活用による海外と交流

など

叙勲・表彰

誠におめでとうございます

(敬称略「同窓会だより」第60号以降)

令和2年10月1日現在

佐藤 慶子 昭和29年・61回
石川 正義 昭和28年・60回
大川 賢一 昭和33年・65回
中村理一郎 昭和34年・66回
春山 進 昭和41年・73回
三浦 慎士 昭和41年・73回
河井 勉 昭和32年・64回
中村 和夫 昭和25年・57回
渡部俊一郎 昭和26年・58回
島海 滋子 昭和33年・65回
押井 喜一 昭和43年・75回
三原 一郎 昭和43年・75回
菊地 善教 昭和41年・73回
阿部 明 昭和40年・72回
阿達 俊治 昭和36年・68回
佐藤 登 昭和26年・58回
小野田秀貴 昭和45年・77回
五十嵐 明 昭和26年・58回
早坂 剛 昭和33年・65回

令和元年度
令和元年10月
令和元年秋
令和元年秋
令和元年秋
令和元年秋
令和2年2月
令和2年2月
令和2年2月
令和2年4月
令和2年春
令和2年春
令和2年春
令和2年春
令和2年7月
令和2年9月
令和2年10月
令和2年10月

文部科学大臣表彰(学校保健・学校薬剤士)
瑞宝小綬章(教育功劳)
旭日双光章(保健衛生功劳)
瑞宝小綬章(教育研究功劳)
瑞宝小綬章(教育功劳)
瑞宝双光章(教育功劳)
瑞宝单光章(統計調査功劳)
瑞宝双光章(検察事務功劳)
瑞宝双光章(教育功劳)
瑞宝双光章(教育功劳)
旭日双光章(地方自治功劳)
旭日双光章(保健衛生功劳)
瑞宝小綬章(教育功劳)
瑞宝双光章(教育功劳)
藍綬褒章(更生保護功績)
旭日单光章(地方自治功劳)
瑞宝双光章(調停委員功劳)
瑞宝双光章(教育功劳)
鶴岡市政功勞表彰(産業経済功劳)

訃報

謹んで哀悼の意を表します

(敬称略「同窓会だより」第60号以降)

令和2年10月1日現在

大澤 常雄 旧職員 昭21.8～昭39.3
昭16年・49回
大川 勝三郎 旧職員 昭26.3～昭52.3
4修
梅本 卓 4修
高橋 修次 昭17年・50回
佐藤 昭一 昭19年・52回
太田 仁志 昭20年⑤・53回
多田 昭一 昭20年⑤・53回
小林(麻生)登 昭20年④・53回
富樫 泰教 昭21年・54回
高橋 慶一 昭21年・54回
坂本 敬一 昭21年・54回
丸谷 桂太郎 昭21年・54回
土田 桂二 昭21年・定16回
遠藤 清 昭23年・55回
石塚(佐藤)薫 昭24年・56回
半田 一郎 昭24年・56回
本間 光昭 昭24年・56回
木村 実 昭25年・57回
斉藤 欣弥 昭25年・57回
吉田 俊次郎 昭25年・57回
渡部 瑞夫 昭26年・58回
田村(田村)健子 昭26年・58回
横山 隆治 昭26年・58回
佐藤 元昭 昭26年・58回
佐藤 勉 昭26年・58回
辻(坂野)恭子 昭26年・58回
渡部 俊一郎 昭26年・58回
加藤(石谷)麗子 昭26年・定21回
梅津 五郎 昭26年・定21回
佐藤 昭一 昭26年・定21回
佐藤 健吾 昭26年・定21回
石栗 信吉 昭27年・59回
菅原(長谷川)世津子 昭27年・59回
地主(渡部)順子 昭27年・59回
阿部 セツ子 昭27年・59回
阿蘇 司朗 昭27年・59回
鈴木(佐藤)祥子 昭27年・59回

奥田 實 昭27年・59回
富樫 晃 昭27年・定22回
加藤 孝 昭27年・定22回
清原 一太 昭28年・60回
高木(小林)昭子 昭28年・60回
大川(池原)規子 昭28年・60回
小林(長南)友子 昭28年・60回
佐藤(本間)吉美 昭28年・60回
常盤(梅津)桂子 昭28年・商2回
長谷川(服部)節 昭28年・定23回
富樫 重雄 昭28年・定23回
五十嵐(菅原)袈裟男 昭28年・定23回
五十嵐(渡部)幸 昭28年・定24回
佐藤 勇 昭29年・61回
太田 哲 昭29年・61回
田中 力 昭29年・61回
永田 茂 昭29年・61回
齋藤(齋藤)仁子 昭29年・61回
秋野 利夫 昭29年・61回
鈴木 肇 昭30年・62回
阿部 正行 昭30年・62回
高橋 徹 昭30年・62回
秋山 三郎 昭30年・62回
佐藤 惇 昭30年・商4回
佐藤 秀一 昭30年・定26回
三浦 順一 昭31年・63回
小林 勝治 昭31年・商5回
友澤(吉屋)萬里子 昭32年・64回
成田 公一 昭32年・64回
加賀山(工藤)瑞子 昭32年・64回
高宮 治生 昭33年・65回
島海(佐藤)滋子 昭33年・65回
陶山 儀典 昭33年・65回
杉本 浩 昭33年・65回
五十嵐 郁夫 昭33年・65回
仁平 吉也 昭34年・66回
竹屋 宏 昭34年・66回
本間 省二 昭34年・66回
荒井 満男 昭34年・商8回

斉藤 徳藏 昭34年・定30回
菅原 幸一 昭34年・定30回
富樫 昌作 昭35年・67回
五十嵐 鎮 昭35年・67回
大滝 淳治 昭36年・68回
渡辺 博 昭36年・68回
栗本 哲郎 昭37年・69回
水口 俊次 昭37年・69回
榎本 登茂治 昭37年・商11回
野坂 良昭 昭38年・70回
鈴木 雄一 昭39年・71回
生田 儀光 昭39年・71回
渡辺(高橋)洋井 昭39年・71回
田沢(難波)正喜 昭39年・定35回
杉山 広幸 昭40年・72回
秋元 順雄 昭40年・72回
齋藤 伸一 昭41年・73回
佐藤 均 昭41年・商15回
齋藤 精吾 昭41年・定37回
伊藤 重三 昭42年・74回
押井 喜一 昭43年・75回
笠原(本間)良治 昭43年・75回
小野田 秀貴 昭45年・77回
佐藤 清貴 昭46年・78回
水口 静男 昭46年・定42回
鎌田(斉藤)央 昭47年・79回
坂 清紀 昭47年・79回
斉藤 一男 昭47年・79回
本間 二三子 昭47年・通16回
宮野 斉 昭52年・84回
松浦(佐々木)美奈子 昭55年・87回
伊藤 廉 昭57年・89回
三浦 知秋 昭58年・90回
後藤 直治 昭59年・通28回
高橋 勝徳 平6年・101回

(111名)

令和元年度 鶴翔同窓会の事業報告

平成 31 年 4 月 1 日 ～ 令和 2 年 3 月 31 日

理 事 会	第 1 回 (6/5)
役 員 会	第 1 回 (5/8)・第 2 回 (11/14)・第 3 回 (R2.3/5)
創 立 131 周 年 事 記 念 行 事 (7 月 1 日)	13:00 ～記念式典・記念講演：鶴翔会館 佐藤 正光 氏 (S54 卒 86 回) 東京学芸大学教授 16:45 ～総会：グランドエルサン ローズルーム 18:00 ～記念祝賀会：グランドエルサン クリスタルホール
創 立 記 念 行 事 実 行 委 員 会	131 周年 (5/15)・(6/28) 132 周年 (11/12)・(R2.2/5)
卒 業 周 年 会 同 期	50 周年：S44 卒 76 回 (7/2) 40 周年：S54 卒 86 回 (8/10) 30 周年：H 元卒・96 回 (8/15) 20 周年：H11 卒・106 回 (8/12)
同 窓 会 だ よ り	第 60 号発行 (11/1) 企画編集会議 (4/16～11 回)
令和元年度入学式	全日制：201 名 (H31.4/8) 通信制：35 名 (H31.4/14)
令和元年度卒業式	全日制：197 名 (R2.3/1) 通信制：33 名 (R2.3/15)

各地の鶴翔会・支部総会	
東京鶴翔同窓会 (6/8)	大手町サンケイプラザ
北海道支部・鳴鶴会 (6/8)	札幌ガーデンパレス
関西鶴翔同窓会 (6/16)	大阪フェスティバルプラザ
羽黒支部 (6/27)	羽黒「大進坊」
新潟支部 (8/24)	アートホテル新潟駅前
仙台鶴翔同窓会 (8/31)	仙台スマイルホテル
山形鶴翔同窓会 (9/4)	山形グランドホテル
通友会 (9/29)	平田農村環境センター
酒田支部 (10/13)	さかたセントラルホテル

事務局よりお知らせ

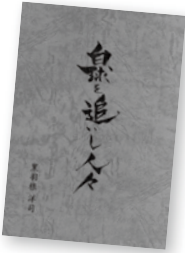
◎ PTA より 5,945,288 円いただきました（学校支援特別会計の寄託金をご覧ください）
3 年教室のエアコン補修のために PTA が 11 年間積み立ててきたお金です。今後、教室のエアコンは県が管理することになったため積み立ての必要がなくなりました。

◎ ご著書いただきました ありがとうございます

黒羽根洋司氏（昭 40 卒・72 回）

寄贈図書

「白球を追いつ人々」



◎ 酒田支部総会を開催しました
酒田支部令和元年 10 月 13 日の出席者です。
(9 月以前の各支部の総会は 60 号にて掲載済みです。)



◎ 会員名簿発刊します

令和 4 年 6 月発刊を予定しております。令和 3 年に皆様のお手元に調査のカードをお届けしますので、ご協力をお願いします。

維持会費・寄付金の納入方法にクレジットカード決済が追加になりました

今年より開始します。スマホ・パソコンでかんたん振込
三井住友（S M B C）ファイナンスサービスの決済システムを利用し情報の漏洩を防いでいます。
鶴翔同窓会のホームページの 「クレジットカードで同窓会費のお支払い」 をクリック→
会員情報を入力→クレジットカード決済ページで金額入力



鶴翔同窓会 検索

令和 2 年度 鶴翔同窓会 役員・事務局体制

役 員

・ 顧 問	石黒 慶一 (昭35卒・67回)		
・ 会 長	齋藤 正志 (昭44卒・76回)		
・ 副 会 長	國井 英夫 (昭44卒・76回)	田中 芳昭 (昭46卒・78回)	黒澤 久子 (昭46卒・78回)
	滝川 義朗 (昭51卒・83回)	渡會 俊仁 嗣(昭57卒・89回)	福山 巡一 (昭41卒・通10回)
	坂尾 聡 嗣(校長・昭55卒・87回)		
・ 会計監事	伊藤 博 (昭50卒・82回)	堀 真一 (昭53卒・85回)	菅原 一浩 (昭60卒・92回)

事 務 局

・ 事務局長	佐藤 守 (昭51卒・83回)		
・ 事務局員	高樹 陽子 (昭45卒・77回)	石塚 俊朗 (昭45卒・77回)	須田 まき (昭49卒・81回)
	菅原 ゆり (昭51卒・83回)	北風 秀明 (平2卒・97回)	佐藤 英成 (平5卒・100回)
・ 学 校 側	藤橋 弘行 嗣(事務部長)	砂田 智 (全日教頭・昭57卒・89回)	
	田村 裕 嗣(通信教頭・昭60卒・92回)	佐藤 義徳 嗣(総務課長)	
・ 事務補助員	齋藤 優子		

令和元年度 鶴翔同窓会一般会計決算

平成31年4月1日 ～ 令和2年3月31日 単位:円

収入の部	本年度予算額	本年度決算額	比較増減	備 考
1 会 費	5,675,000	5,536,000	▲ 139,000	
① 入 会 金	1,175,000	1,150,000	▲ 25,000	@5,000円×(197+33)名
② 維持会費	4,500,000	4,386,000	▲ 114,000	@3,050円×1,438件 ゆうちょ812件 コンビニ626件
2 広 告 料	280,000	295,000	15,000	同窓会だより:@15,000円×15件、HPバナー広告:@10,000×7件
3 繰 入 金	150,000	150,000	0	事業積立金より
4 繰 越 金	242,624	242,624	0	前年度からの繰越金
5 雑 収 入	22,376	39,107	16,731	東京鶴翔役員地震見舞金25,600円、会員名簿売却(3冊)
合 計	6,370,000	6,262,731	▲ 107,269	

支出の部	本年度予算額	本年度決算額	比較増減	備 考
1 運 営 費	1,810,000	1,840,929	30,929	
① 会 議 費	40,000	32,199	▲ 7,801	事務局会議、役員会、理事会、総会
② 需 用 費	160,000	135,853	▲ 24,147	はがき、切手、事務用品、インターネット接続 他
③ 負 担 金	700,000	700,000	0	PTA書記給与負担金
④ 旅 費	390,000	435,721	45,721	支部総会出席者旅費等
⑤ 支払手数料	220,000	261,614	41,614	維持会費・寄付金振替手数料
⑥ 雑 費	300,000	275,542	▲ 24,458	事務局員活動費、慶弔費、地震対策用セーフティコーン
2 事 業 費	4,560,000	4,298,545	▲ 261,455	
①同窓会報印刷発行費	2,850,000	2,843,107	▲ 6,893	印刷費・封筒・発送費等
②創立記念事業費	680,000	527,198	▲ 152,802	案内印刷、看板、講演料、実行委員会会議費 他
③ホームページ運営事業費	180,000	179,280	▲ 720	ホームページ運営費
④支部総会補助費	180,000	145,000	▲ 35,000	支部総会祝金(庄内5,000円、他10,000円)
⑤在校生活活動奨励費	480,000	430,000	▲ 50,000	全日300,000円、通信100,000円、部活動祝金30,000円
⑥卒業記念品	190,000	173,960	▲ 16,040	卒業証書ファイル(216冊)
⑦事業積立金	0	0	0	事業積立金会計への繰出金
⑧特別会計繰出金	0	0	0	学校支援活動特別会計への繰出金
3 予 備 費	0	0	0	
合 計	6,370,000	6,139,474	▲ 230,526	

[収入] 6,262,731円 - [支出] 6,139,474円 = 123,257円 (次年度への繰越)

令和元年度 鶴翔同窓会事業積立金会計決算

平成31年4月1日 ～ 令和2年3月31日 単位:円

収入の部	本年度予算額	本年度決算額	比較増減	備 考
1 一般会計繰入金	0	0	0	
2 寄 付 金	1,500,000	1,324,000	▲ 176,000	251件
3 手 数 料	0	0	0	「会員名簿」発刊時の還元金
4 繰 越 金	6,094,479	6,094,479	0	前年度からの繰越金
5 雑 収 入	21	39	18	預金利子
合 計	7,594,500	7,418,518	▲ 175,982	

支出の部	本年度予算額	本年度決算額	比較増減	備 考
1 教育振興事業費	100,000	0	▲ 100,000	
2 特別会計繰出金	100,000	100,000	0	エアコン特別会計へ
3 一般会計繰出金	150,000	150,000	0	一般会計へ
4 創立記念事業費	0	0	0	
5 予 備 費	7,244,500	0	▲ 7,244,500	
合 計	7,594,500	250,000	▲ 7,344,500	

[収入] 7,418,518円 - [支出] 250,000円 = 7,168,518円 (次年度への繰越)

令和元年度 鶴翔同窓会学校支援活動特別会計決算

平成31年4月1日 ～ 令和2年3月31日 単位:円

収入の部	本年度予算額	本年度決算額	比較増減	備 考
1 一般会計繰入金	0	0	0	寄託金内訳
2 積立金会計繰入金	0	0	0	平成21年3月(116回)～平成31年3月(126回)の卒業生様 5,945,288円
3 寄 託 金	600,000	6,426,528	5,826,528	平成31年3月(126回)卒業一同様 263,851円
4 繰 越 金	1,000,042	1,000,042	0	令和 2年3月(127回)卒業一同様 205,459円
5 雑 収 入	58	9	▲ 49	平成 1年3月(96回)卒業一同様 11,930円
合 計	1,600,100	7,426,579	5,826,479	

支出の部	本年度予算額	本年度決算額	比較増減	備 考
1 事 務 費	5,000	0	▲ 5,000	
2 激 励 活 動 費	250,000	257,602	7,602	新会員受験対策支援(仙台・東京・京都方面)
3 整 備 活 動 費	250,000	359,960	109,960	進路模試用PC、ストーブ8台
4 助 成 活 動 費	250,000	50,132	▲ 199,868	マラソン用ゼッケン
5 予 備 費	845,100	0	▲ 845,100	
合 計	1,600,100	667,694	▲ 932,406	

[収入] 7,426,579円 - [支出] 667,694円 = 6,758,885円 (次年度への繰越)

令和元年度 鶴翔同窓会鶴翔会館エアコン特別会計決算

平成31年4月1日 ～ 令和2年3月31日 単位:円

収入の部	本年度予算額	本年度決算額	比較増減	備 考
1 ガス使用料金	90,000	100,113	10,113	PTAからの使用料で基本料金を除く
2 積立金会計繰入金	100,000	100,000	0	設備メンテナンス修理費
3 繰 越 金	881,631	881,631	0	前年度からの繰越金
4 雑 収 入	69	8	▲ 61	預金利子等
合 計	1,071,700	1,081,752	10,052	

支出の部	本年度予算額	本年度決算額	比較増減	備 考
1 ガス使用料金	90,000	111,126	21,126	鶴岡ガス㈱への支払
2 メンテナンス・修理費	250,000	24,300	▲ 225,700	室外機H26設置から5年目のメンテナンスで学校側と折半
3 繰 出 金	0	0	0	
4 予 備 費	731,700	0	▲ 731,700	
合 計	1,071,700	135,426	▲ 936,274	

[収入] 1,081,752円 - [支出] 135,426円 = 946,326円 (次年度への繰越)

令和2年度 鶴翔同窓会一般会計予算

令和2年4月1日 ～ 令和3年3月31日 単位:円

収 入 の 部	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	備 考
1 会 費	5,625,000	5,675,000	▲ 50,000	
① 入 会 金	1,125,000	1,175,000	▲ 50,000	@5,000円×(195+30)名
② 維持会費	4,500,000	4,500,000	0	@3,000円×1,500件
2 広 告 料	280,000	280,000	0	同窓会だより:@15,000円×14件、HPバナー広告:@10,000×7件
3 繰 入 金	0	150,000	▲ 150,000	事業積立金より
4 繰 越 金	123,257	242,624	▲ 119,367	前年度からの繰越金
5 雑 収 入	11,743	22,376	▲ 10,633	会員名簿売却代 他
合 計	6,040,000	6,370,000	▲ 330,000	

支 出 の 部	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	備 考
1 運 営 費	1,350,000	1,810,000	▲ 460,000	
① 会 議 費	10,000	40,000	▲ 30,000	事務局会議、役員会、理事会、総会
② 需 用 費	140,000	160,000	▲ 20,000	はがき、切手、事務用品、インターネット接続 他
③ 負 担 金	710,000	700,000	10,000	PTA書記給与負担金
④ 旅 費	10,000	390,000	▲ 380,000	支部総会出席者旅費等
⑤ 支払手数料	280,000	220,000	60,000	維持会費・寄付金振替手数料
⑥ 雑 費	200,000	300,000	▲ 100,000	事務局員活動費、慶弔費、諸雑費
2 事 業 費	3,670,000	4,560,000	▲ 890,000	
①同窓会報印刷発行費	2,850,000	2,850,000	0	印刷費・封筒・発送費等
②創立記念事業費	10,000	680,000	▲ 670,000	案内印刷、看板、講演料、実行委員会会議費 他
③ホームページ運営事業費	180,000	180,000	0	ホームページ運営費
④支部総会補助費	10,000	180,000	▲ 170,000	支部総会祝金(庄内5,000円、他10,000円)
⑤在校生活動奨励費	430,000	480,000	▲ 50,000	全日300,000円、通信100,000円、部活動祝金30,000円
⑥卒業記念品	190,000	190,000	0	卒業証書ファイル(240冊)
⑦事業積立金	0	0	0	事業積立金会計への繰出金
⑧特別会計繰出金	0	0	0	学校支援活動特別会計への繰出金
3 予 備 費	1,020,000	0	1,020,000	
合 計	6,040,000	6,370,000	▲ 330,000	

令和2年度 鶴翔同窓会事業積立金会計予算

令和2年4月1日 ～ 令和3年3月31日 単位:円

収 入 の 部	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	備 考
1 一般会計繰入金	0	0	0	
2 寄 付 金	1,300,000	1,500,000	▲ 200,000	250件
3 手 数 料	0	0	0	「会員名簿」発刊時の還元金
4 繰 越 金	7,168,518	6,094,479	1,074,039	前年度からの繰越金
5 雑 収 入	82	21	61	預金利子
合 計	8,468,600	7,594,500	874,100	

支 出 の 部	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	備 考
1 教育振興事業費	0	100,000	▲ 100,000	
2 特別会計繰出金	0	100,000	▲ 100,000	エアコン特別会計へ
3 一般会計繰出金	0	150,000	▲ 150,000	一般会計へ
4 創立記念事業費	0	0	0	
5 予 備 費	8,468,600	7,244,500	1,224,100	
合 計	8,468,600	7,594,500	874,100	

令和2年度 鶴翔同窓会学校支援活動特別会計予算

令和2年4月1日 ～ 令和3年3月31日 単位:円

収 入 の 部	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	備 考
1 一般会計繰入金	0	0	0	
2 積立金会計繰入金	0	0	0	
3 寄 託 金	200,000	600,000	▲ 400,000	
4 繰 越 金	6,758,885	1,000,042	5,758,843	
5 雑 収 入	15	58	▲ 43	
合 計	6,958,900	1,600,100	5,358,800	

支 出 の 部	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	備 考
1 事 務 費	0	5,000	▲ 5,000	
2 激 励 活 動 費	250,000	250,000	0	新会員受験対策支援(仙台・東京・京都方面)
3 整 備 活 動 費	350,000	250,000	100,000	ハード面の整備
4 助 成 活 動 費	150,000	250,000	▲ 100,000	ソフト面の助成
5 予 備 費	6,208,900	845,100	5,363,800	
合 計	6,958,900	1,600,100	5,358,800	

令和2年度 鶴翔同窓会鶴翔会館エアコン特別会計予算

令和2年4月1日 ～ 令和3年3月31日 単位:円

収 入 の 部	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	備 考
1 ガス使用料金	95,000	90,000	5,000	PTAが使用した料金を基本料金を除く
2 積立金会計繰入金	0	100,000	▲ 100,000	事業積立金より
3 繰 越 金	946,326	881,631	64,695	前年度からの繰越金
4 雑 収 入	74	69	5	預金利子等
合 計	1,041,400	1,071,700	▲ 30,300	

支 出 の 部	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	備 考
1 ガス使用料金	110,000	90,000	20,000	鶴岡ガス㈱への支払
2 メンテナンス・修理費	140,000	250,000	▲ 110,000	本年メンテナンス交換(5年毎)で学校側と折半
3 繰 出 金	0	0	0	
4 予 備 費	791,400	731,700	59,700	
合 計	1,041,400	1,071,700	▲ 30,300	

佐	齋	鎌	小	岡	碓	石	生	青	304	昭	土	辻	佐	林	本	風	長	山	坂	佐	佐	今	加	宇	安	愛	渡	脇	三	星	田	高	鈴	鈴	島	佐	佐	佐	佐	金	加	小	野	太	大	大	伊	石	石	五十	阿	昭	萬	村	佐
藤	藤	田	小	寺	田	水	藤	川	柳	304	昭	門	南	藤	間	間	川	口	本	藤	藤	野	藤	治	達	川	部	山	矢	川	澤	橋	木	木	貫	藤	藤	木	津	藤	藤	寺	田	田	川	川	藤	川	垣	五十	阿	昭	萬	村	佐
知	喜	孫	恒	節	淳	直	昌	208	三	昭	公	省	行	正	茂	淳	良	德	玲	新	信	清	龍	淳	瑛	正	見	淑	英	和	清	龍	清	一	清	太	豐	宗	文	勝	俊	重	重	誠	龍	良	宏	212	昭	萬	村	佐			
也	彰	子	市	祐	雄	子	隆	司	良	三	昭	公	省	行	正	茂	淳	良	德	玲	新	信	清	龍	淳	瑛	正	見	淑	英	和	清	龍	清	一	清	太	豐	宗	文	勝	俊	重	重	誠	龍	良	宏	212	昭	萬	村	佐		
也	彰	子	市	祐	雄	子	隆	司	良	三	昭	公	省	行	正	茂	淳	良	德	玲	新	信	清	龍	淳	瑛	正	見	淑	英	和	清	龍	清	一	清	太	豐	宗	文	勝	俊	重	重	誠	龍	良	宏	212	昭	萬	村	佐		
也	彰	子	市	祐	雄	子	隆	司	良	三	昭	公	省	行	正	茂	淳	良	德	玲	新	信	清	龍	淳	瑛	正	見	淑	英	和	清	龍	清	一	清	太	豐	宗	文	勝	俊	重	重	誠	龍	良	宏	212	昭	萬	村	佐		
也	彰	子	市	祐	雄	子	隆	司	良	三	昭	公	省	行	正	茂	淳	良	德	玲	新	信	清	龍	淳	瑛	正	見	淑	英	和	清	龍	清	一	清	太	豐	宗	文	勝	俊	重	重	誠	龍	良	宏	212	昭	萬	村	佐		
也	彰	子	市	祐	雄	子	隆	司	良	三	昭	公	省	行	正	茂	淳	良	德	玲	新	信	清	龍	淳	瑛	正	見	淑	英	和	清	龍	清	一	清	太	豐	宗	文	勝	俊	重	重	誠	龍	良	宏	212	昭	萬	村	佐		
也	彰	子	市	祐	雄	子	隆	司	良	三	昭	公	省	行	正	茂	淳	良	德	玲	新	信	清	龍	淳	瑛	正	見	淑	英	和	清	龍	清	一	清	太	豐	宗	文	勝	俊	重	重	誠	龍	良	宏	212	昭	萬	村	佐		
也	彰	子	市	祐	雄	子	隆	司	良	三	昭	公	省	行	正	茂	淳	良	德	玲	新	信	清	龍	淳	瑛	正	見	淑	英	和	清	龍	清	一	清	太	豐	宗	文	勝	俊	重	重	誠	龍	良	宏	212	昭	萬	村	佐		
也	彰	子	市	祐	雄	子	隆	司	良	三	昭	公	省	行	正	茂	淳	良	德	玲	新	信	清	龍	淳	瑛	正	見	淑	英	和	清	龍	清	一	清	太	豐	宗	文	勝	俊	重	重	誠	龍	良	宏	212	昭	萬	村	佐		
也	彰	子	市	祐	雄	子	隆	司	良	三	昭	公	省	行	正	茂	淳	良	德	玲	新	信	清	龍	淳	瑛	正	見	淑	英	和	清	龍	清	一	清	太	豐	宗	文	勝	俊	重	重	誠	龍	良	宏	212	昭	萬	村	佐		
也	彰	子	市	祐	雄	子	隆																																																

藤渡忠中西水三佐佐佐橋加遠伊阿安本本庭中清鈴鈴菅菅菅菅佐佐佐佐齋柏大上石石阿足
 田部鉢村方口矢井藤藤藤本山藤藤部野間多山村野木木原原原藤藤藤藤谷川野沢黒部達
 充宗 理陸武正照千捷克健隆総健勝宏け一清直喜 康康喜 豐昭洋紀武成英政正生 辰哲
 宏助元一郎哉二士代久郎実巳二士子司寛一子郎子彦功志子之求雄夫司雄雄作樹紀勝子肇郎郎
 2922 鍛和吹大齋墨白渡渡大水小佐伊渡谷宮早寺鈴菅佐
 2922 34谷治野川藤井幡部部川口北藤藤会内河坂嶋木原藤
 2922 26美佐雅俊富士 一賢貫英 格昭 育武宏俊
 2922 18美智子弘輔土昭明久一士夫晃茂治肇剛男彦之士

菅成富小伊木渡鹿齋古阿和吉本富伊武鈴佐齋工木加大石赤 3 昭和齋佐田高佐芳藤渡菅真恩岡阿森三本本服内菅佐齋後木加小小江上井阿
原田樫林藤田辺内藤野部田田間樫達田木藤藤藤村藤川黒澤 0 1 37 藤藤口野藤賀田部原島田 部 井間間部藤原藤藤村山寺野口野上風
守八幸晴美昭房竣知高達英周 秀克二 志征雅清 皓征經 2 4 9 智清四 義 昌 正浩隆政俊久堯正敬正 豐 節 英捷 洋育玲 重洋
弥郎彌夫和子三子一行恒也光而勝夫方郎昭郎士子彦武司子也 4 9 惠郎 信德純純彦洋男子嗣雄二市子吾子伸務雄寛子哲夫三裕子子子彬良子

渡吉丸	長橋	西中	永戸	高	高	菅白	島佐	佐	佐	齊	今窪	菊尾	奥	大井	和石	五十	芦	357	358	阿南	土朝	中成	氏	黒羽	岩加	伊松	本原	奈手	伊	高	鈴	佐	佐	齊									
部川	山木	谷山	本川	井田	橋嶋	原旗	崎藤	藤	藤	藤	野	井地	田形	沼上	泉沢	石	五十	野	昭和41	部	澤	井	辻	家	根城	藤	田間		瀬	良	塚	田	達	橋	橋	木	藤	藤	田				
郁俊	俊	由美子	道節	憲幸	正	勝	京啓	敬	泰	宗悦	弥耕	俊	善	喜太	健	康	玲耐	真一郎	361	美和	紀	正	郁孝	昇	洋清	徹	賢修	孝	増	芳	由美子	義恵	照	欣輝	美	昭	子	子	一	哉	峰		
子雄	男彦	彦	彦	雄	雄	一	良	晃	平	子	子	一	彦	雲	郎	市	治	幸	勉	不	正	和	子	夫	夫	一	司	一	三	司	一	實	義誠	恒	彦	久	美	昭	子	子	一	哉	峰

嶺三	藤能	西成	武佐	佐坂	齋齋	小後	小國	國工	小漆	井阿	阿阿	昭和	平難	難成	瀬森	松秋	山山	佐佐	佐佐	五五	阿吉	吉山	松播	野西	中進	塩塩	佐佐	佐佐	今後	工木	加小	岡岡
田浦	浦崎	登谷	海澤	山口	藤東	藤藤	林藤	池井	井井	藤藤	寺山	3444	川波	沢尾	浦保	本藤	藤藤	藤藤	藤藤	十部	成川	田井	井本	沢村	島藤	野藤	野藤	藤藤	野藤	藤村	藤竹	部
和由	幸言	一勝	博真	清正	正慶	紀京	政美	英洋	美京	太和	3614	秀富	美興	俊孝	益	宣孝	久	甲正	義敏	裕	百	俊厚	増新	勘慶	修	康隆	幸次					
紀郎	雄行	良久	男士	志一	一志	一雄	子幸	保夫	子修	行子	一博	314	紀	都治	直一	良生	保雄	宣喜	滿正	子一	昇子	隆合	子枝	仁子	二太郎	二藏	守一	勉博	介一	樹		

ご寄付、維持会費の納入ありがとうございました。

[illegible]

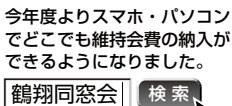
高相佐佐佐酒兼奥太太大青	昭和57	波呂宮鍋土谷齋大石阿	昭和56	桜佐渡迎松本成中富佐佐坂斎小小尾上泉	昭和55	昭富百佐佐横頼平原中土新佐佐工
坂馬藤藤々井子泉竹田山泉	2602	刃橋崎島岐藤沼川部	2601	井藤部田田田田西藤藤藤藤松林形野川	2602	部慇瀬藤藤屋高賀田野田川藤井藤
信洋勝春慎久紀美弘緑	2525	政洋恵るみ子修	2600	由裕亮主絵智幸千圭康由	2551	道克美俊一美稲浩一輝
司功介人滋一郎人恵弘緑	2525	敦人哲美肇子亮斉子修	2600	尚洋子健可裕子徹亮税美聡博修樹晃一郎成起	2551	勉明浩鈴之弥枝子浩洋和枝健仁文

渡横村村福中鈴佐笹北五十	平	大佐遠	渡佐西工木大伊石池五十	昭	毛土佐井渡山本藤長菅白佐齋大大秋	昭	野	安	辻	鈴	榎	阿	昭	
部山山井守條木藤原田五十	成	泉藤藤田邊中藤塔藤山川藤井田五十	和	呂	岐	友	啓	敬	正	吉	奈	雅	信	堀
博弘久美浩聰一	六	仁由瑞	63	あ	友	宏	啓	敬	正	吉	奈	雅	信	井
幸桂聡幸子佐勉一泰子憲	二	晴洋子穂恵安か司宗紀子敦仁子子樹	五	ゆ	美	一	二	忠	賞	知	春	香	堅	田
	五		十	き	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	八		六	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	二		三	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	五		五	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	八		六	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	二		三	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	五		五	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	八		六	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	二		三	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	五		五	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	八		六	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	二		三	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	五		五	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	八		六	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	二		三	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	五		五	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	八		六	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	二		三	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	五		五	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	八		六	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	二		三	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	五		五	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	八		六	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	二		三	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	五		五	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	八		六	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	二		三	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	五		五	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	八		六	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	二		三	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	五		五	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	八		六	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	二		三	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	五		五	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	八		六	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	二		三	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	五		五	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	八		六	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	二		三	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	五		五	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	八		六	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	二		三	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	五		五	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	八		六	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	二		三	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	五		五	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	八		六	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	二		三	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	五		五	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	八		六	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	二		三	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	五		五	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	八		六	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	二		三	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	五		五	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	八		六	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	二		三	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	五		五	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	八		六	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	二		三	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	五		五	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	八		六	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	二		三	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	五		五	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	八		六	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	二		三	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	五		五	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	八		六	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	二		三	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	五		五	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	八		六	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	二		三	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	五		五	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	八		六	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	二		三	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	五		五	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	八		六	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	二		三	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	五		五	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	八		六	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	二		三	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	五		五	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	八		六	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	二		三	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	五		五	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	八		六	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	二		三	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	五		五	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	八		六	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	二		三	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	五		五	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	八		六	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	二		三	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	五		五	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	八		六	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	二		三	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	五		五	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	八		六	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	二		三	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	五		五	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	八		六	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	二		三	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	五		五	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	八		六	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	二		三	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	五		五	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	八		六	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	二		三	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	五		五	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	八		六	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	二		三	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	五		五	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	八		六	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	二		三	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	五		五	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	八		六	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	二		三	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	五		五	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	八		六	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	二		三	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	五		五	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	八		六	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	二		三	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	五		五	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	八		六	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	二		三	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	五		五	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	八		六	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	二		三	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	五		五	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	八		六	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	二		三	子	美	縁	縁	鈴	忠	賞	知	春	香	田
	五		五	子	美									

眞廣	難手	佐佐	菊阿	平	渡	工與	矢鹿	佐	黒	板石	荒	平	田	佐	三本	本半	田	佐	齊大	梅上	2	4	2	平	野	叶	平	石	丸	佐	佐	今	後	黒	吉	菊	梅	2	6	5	平	吉	田	佐	今						
島原	波塚	藤部	地部	平	部	藤	口戸	藤	羽垣	黒	木	平	中	藤	居	浦間	間澤	藤	藤	滝津	野	2	4	2	平	野	尻野	平	石	川	谷	藤	藤	藤	藤	今	後	黒	吉	菊	梅	2	6	5	平	吉	田	佐	今		
佑	洋一	鉄清	教	平	夕	慎	直	朋	理	康	2	4	2	千	光	亮	美	康	千	久	香	琢	寛	吉	博	2	4	2	平	野	川	谷	藤	藤	藤	藤	今	後	黒	吉	菊	梅	2	6	5	平	吉	田	佐	今	
介	史郎	平香	行香	平	覚	佐	豊	旬	子	恵	博	2	4	2	千	光	亮	美	康	千	久	香	琢	寛	吉	博	2	4	2	平	野	川	谷	藤	藤	藤	藤	今	後	黒	吉	菊	梅	2	6	5	平	吉	田	佐	今
佐	洋一	鉄清	教	平	夕	慎	直	朋	理	康	2	4	2	千	光	亮	美	康	千	久	香	琢	寛	吉	博	2	4	2	平	野	川	谷	藤	藤	藤	藤	今	後	黒	吉	菊	梅	2	6	5	平	吉	田	佐	今	
佐	洋一	鉄清	教	平	夕	慎	直	朋	理	康	2	4	2	千	光	亮	美	康	千	久	香	琢	寛	吉	博	2	4	2	平	野	川	谷	藤	藤	藤	藤	今	後	黒	吉	菊	梅	2	6	5	平	吉	田	佐	今	
佐	洋一	鉄清	教	平	夕	慎	直	朋	理	康	2	4	2	千	光	亮	美	康	千	久	香	琢	寛	吉	博	2	4	2	平	野	川	谷	藤	藤	藤	藤	今	後	黒	吉	菊	梅	2	6	5	平	吉	田	佐	今	
佐	洋一	鉄清	教	平	夕	慎	直	朋	理	康	2	4	2	千	光	亮	美	康	千	久	香	琢	寛	吉	博	2	4	2	平	野	川	谷	藤	藤	藤	藤	今	後	黒	吉	菊	梅	2	6	5	平	吉	田	佐	今	
佐	洋一	鉄清	教	平	夕	慎	直	朋	理	康	2	4	2	千	光	亮	美	康	千	久	香	琢	寛	吉	博	2	4	2	平	野	川	谷	藤	藤	藤	藤	今	後	黒	吉	菊	梅	2	6	5	平	吉	田	佐	今	
佐	洋一	鉄清	教	平	夕	慎	直	朋	理	康	2	4	2	千	光	亮	美	康	千	久	香	琢	寛	吉	博	2	4	2	平	野	川	谷	藤	藤	藤	藤	今	後	黒	吉	菊	梅	2	6	5	平	吉	田	佐	今	
佐	洋一	鉄清	教	平	夕	慎	直	朋	理	康	2	4	2	千	光	亮	美	康	千	久	香	琢	寛	吉	博	2	4	2	平	野	川	谷	藤	藤	藤	藤	今	後	黒	吉	菊	梅	2	6	5	平	吉	田	佐	今	
佐	洋一	鉄清	教	平	夕	慎	直	朋	理	康	2	4	2	千	光	亮	美	康	千	久	香	琢	寛	吉	博	2	4	2	平	野	川	谷	藤	藤	藤	藤	今	後	黒	吉	菊	梅	2	6	5	平	吉	田	佐	今	
佐	洋一	鉄清	教	平	夕	慎	直	朋	理	康	2	4	2	千	光	亮	美	康	千	久	香	琢	寛	吉	博	2	4	2	平	野	川	谷	藤	藤	藤	藤	今	後	黒	吉	菊	梅	2	6	5	平	吉	田	佐	今	
佐	洋一	鉄清	教	平	夕	慎	直	朋	理	康	2	4	2	千	光	亮	美	康	千	久	香	琢	寛	吉	博	2	4	2	平	野	川	谷	藤	藤	藤	藤	今	後	黒	吉	菊	梅	2	6	5	平	吉	田	佐	今	
佐	洋一	鉄清	教	平	夕	慎	直	朋	理	康	2	4	2	千	光	亮	美	康	千	久	香	琢	寛	吉	博	2	4	2	平	野	川	谷	藤	藤	藤	藤	今	後	黒	吉	菊	梅	2	6	5	平	吉	田	佐	今	
佐	洋一	鉄清	教	平	夕	慎	直	朋	理	康	2	4	2	千	光	亮	美	康	千	久	香	琢	寛	吉	博	2	4	2	平	野	川	谷	藤	藤	藤	藤	今	後	黒	吉	菊	梅	2	6	5	平	吉	田	佐	今	
佐	洋一	鉄清	教	平	夕	慎	直	朋	理	康	2	4	2	千	光	亮	美	康	千	久	香	琢	寛	吉	博	2	4	2	平	野	川	谷	藤	藤	藤	藤	今	後	黒	吉	菊	梅	2	6	5	平	吉	田	佐	今	
佐	洋一	鉄清	教	平	夕	慎	直	朋	理	康	2	4	2	千	光	亮	美	康	千	久	香	琢	寛	吉	博	2	4	2	平	野	川	谷	藤	藤	藤	藤	今	後	黒	吉	菊	梅	2	6	5	平	吉	田	佐	今	
佐	洋一	鉄清	教	平	夕	慎	直	朋	理	康	2	4	2	千	光	亮	美	康	千	久	香	琢	寛	吉	博	2	4	2	平	野	川	谷	藤	藤	藤	藤	今	後	黒	吉	菊	梅	2	6	5	平	吉	田	佐	今	
佐	洋一	鉄清	教	平	夕	慎	直	朋	理	康	2	4	2	千	光	亮	美	康	千	久	香	琢	寛	吉	博	2	4	2	平	野	川	谷	藤	藤	藤	藤	今	後	黒	吉	菊	梅	2	6	5	平	吉	田	佐	今	
佐	洋一	鉄清	教	平	夕	慎	直	朋	理	康	2	4	2	千	光	亮	美	康	千	久	香	琢	寛	吉	博	2	4	2	平	野	川	谷	藤	藤	藤	藤	今	後	黒	吉	菊	梅	2	6	5	平	吉	田	佐	今	
佐	洋一	鉄清	教	平	夕	慎	直	朋	理	康	2	4	2	千	光	亮	美	康	千	久	香	琢	寛	吉	博	2	4	2	平	野	川	谷	藤	藤	藤	藤	今	後	黒	吉	菊	梅	2	6	5	平	吉	田	佐	今	
佐	洋一	鉄清	教	平	夕	慎	直	朋	理	康	2	4	2	千	光	亮	美	康	千	久	香	琢	寛	吉	博	2	4	2	平	野	川	谷	藤	藤	藤	藤	今	後	黒	吉	菊	梅	2	6	5	平	吉	田	佐	今	
佐	洋一	鉄清	教	平	夕	慎	直	朋	理	康	2	4	2	千	光	亮	美	康	千	久	香	琢	寛	吉	博	2	4	2	平	野	川	谷	藤	藤	藤	藤	今	後	黒	吉	菊	梅	2	6	5	平	吉	田	佐	今	
佐	洋一	鉄清	教	平	夕	慎	直	朋	理	康	2	4	2	千	光	亮	美	康	千	久	香	琢	寛	吉	博	2	4	2	平	野	川	谷	藤	藤	藤	藤	今	後	黒	吉	菊	梅	2	6	5	平	吉	田	佐	今	
佐	洋一	鉄清	教	平	夕	慎	直	朋	理	康	2	4	2	千	光	亮	美	康	千	久	香	琢	寛	吉	博	2	4	2	平	野	川	谷	藤	藤	藤	藤	今	後	黒	吉	菊	梅	2	6	5	平	吉	田	佐	今	
佐	洋一	鉄清	教	平	夕	慎	直	朋	理	康	2	4	2	千	光	亮	美	康	千	久	香	琢	寛	吉	博	2	4	2	平	野	川	谷	藤	藤	藤	藤	今	後	黒	吉	菊	梅	2	6	5	平	吉	田	佐	今	
佐	洋一	鉄清	教	平	夕	慎	直	朋	理	康	2	4	2	千	光	亮	美	康	千	久	香	琢	寛	吉	博	2	4	2	平	野	川	谷	藤	藤	藤	藤	今	後	黒	吉	菊	梅	2	6	5	平	吉	田	佐	今	
佐	洋一	鉄清	教	平	夕	慎	直	朋	理	康	2	4	2	千	光	亮	美	康	千	久	香	琢	寛	吉	博	2	4	2	平	野	川	谷	藤	藤	藤	藤	今	後	黒	吉	菊	梅	2	6	5	平	吉	田	佐	今	
佐	洋一	鉄清	教	平	夕	慎	直	朋	理	康	2	4	2	千	光	亮	美	康	千	久	香	琢	寛	吉	博	2	4	2	平	野	川	谷	藤	藤	藤	藤	今	後	黒	吉	菊	梅	2	6	5	平	吉	田	佐	今	
佐	洋一	鉄清	教	平	夕	慎	直	朋	理	康	2	4	2	千	光	亮	美	康	千	久	香	琢	寛	吉	博	2	4	2	平	野	川	谷	藤	藤	藤	藤	今	後	黒	吉	菊	梅	2	6	5	平	吉	田	佐	今	
佐	洋一	鉄清	教	平	夕	慎	直	朋	理	康	2	4	2	千	光	亮	美	康	千	久	香	琢	寛	吉	博	2	4	2	平	野	川	谷	藤	藤	藤	藤	今	後	黒	吉	菊	梅	2	6	5	平	吉	田	佐	今	
佐	洋一	鉄清	教	平	夕	慎	直	朋	理	康	2	4	2	千	光	亮	美	康	千	久	香	琢	寛	吉	博	2	4	2	平	野	川	谷	藤	藤	藤	藤	今	後	黒	吉	菊	梅	2	6	5	平	吉	田	佐	今	
佐	洋一	鉄清	教	平	夕	慎	直	朋	理	康	2	4	2	千	光	亮	美	康	千	久	香	琢	寛	吉	博	2	4	2	平	野	川	谷	藤	藤	藤	藤	今	後	黒	吉	菊	梅	2	6	5	平	吉	田	佐	今	
佐	洋一	鉄清	教	平	夕	慎	直	朋	理	康	2	4	2	千	光	亮	美	康	千	久	香	琢	寛	吉	博	2	4	2	平	野	川	谷	藤	藤	藤	藤	今	後	黒	吉	菊	梅	2	6	5	平	吉	田	佐	今	
佐	洋一	鉄清	教	平	夕	慎	直	朋	理	康	2	4	2	千	光	亮	美	康	千	久	香	琢	寛	吉	博	2	4	2	平	野	川	谷	藤	藤	藤	藤	今	後	黒	吉	菊	梅	2	6	5	平	吉	田	佐	今	
佐	洋一	鉄清	教	平	夕	慎	直	朋	理	康	2	4	2	千	光	亮	美	康	千	久	香	琢	寛	吉	博	2	4	2	平	野	川	谷	藤	藤	藤	藤	今	後	黒	吉	菊	梅	2	6	5	平	吉	田	佐	今	
佐	洋一	鉄清	教	平	夕	慎	直	朋	理	康	2	4	2	千	光	亮	美	康	千	久	香	琢	寛	吉	博	2	4	2	平	野	川	谷	藤	藤	藤	藤	今	後	黒	吉	菊	梅	2	6	5	平	吉	田	佐	今	
佐	洋一	鉄清	教	平	夕	慎	直	朋	理	康	2	4	2	千	光	亮	美	康	千	久	香	琢	寛	吉	博	2	4	2	平	野	川	谷	藤	藤	藤	藤	今	後	黒	吉	菊	梅	2	6	5	平	吉	田	佐	今	
佐	洋一	鉄清	教	平	夕	慎	直	朋	理	康	2	4	2	千	光	亮	美	康	千	久	香	琢	寛	吉	博	2	4	2	平	野	川	谷	藤	藤	藤	藤															

吉本佐齋加薄	平佐佐佐佐伊五十	平佐佐佐佐伊五十	大諸樋佐石	平山守土須鈴鎌加太	平佐佐	平菅志佐黑	平山成須菅佐佐鎌上	平橋下齋采黑	平成
1988	27	27	26	25	24	23	22	21	20
田間藤藤藤藤	藤藤藤藤藤	藤藤藤藤藤	和橋口藤藤	本岡井田木田藤田	藤藤藤	原原原	本田田原藤藤田野	爪山藤川澤	20
1988	27	27	26	25	24	23	22	21	20
望豪竜隆修	遙	いすみ	佐佑沙理文	奈雄沙琳真邦裕裕	拓和	由貴美真早	泰純雄裕子貢良	希孝昂芽	20
1988	27	27	26	25	24	23	22	21	20
里太太介人諒	遙	いすみ	佐佑沙理文	奈雄沙琳真邦裕裕	拓和	由貴美真早	泰純雄裕子貢良	希孝昂芽	20
1988	27	27	26	25	24	23	22	21	20

ご寄付、維持会費の納入ありがとうございました。





南高祭

コロナ禍でも元気に

2020
7/29(水)
7/30(木)



編集後記

同窓会だより第61号をお届けします。

本来であれば56年ぶりに開催される東京オリンピックの熱気と興奮が冷めやらぬ中の編集作業となるはずでした。昨年12月以降中国湖北省武漢市を中心に発生した新型コロナウイルスCOVID-19は瞬く間に全世界に広がり、私たちの生活を一変させました。パンデミック、PCR、クラスター、ステイホーム、ソーシャルディスタンス等いくつかの耳慣れない言葉がいつの間にか浸透してしまいました。

「三密」を回避するため、行事・イベントの多くが見直しを迫られました。鶴翔同窓会もまた然り。創立記念日の同窓会総会も祝賀会も開催を見合わせ。各支部も同様な決断をせざるを得なかったところは多かったのではないのでしょうか。

本号は、コロナ禍にあつて、せめて紙上で母校や卒業生の現在、在校生の活躍、懐かしい恩師の方々のご様子をお伝えしたいと、企画したものです。ご多忙の中、多くの方々より玉稿をお寄せいただきました。特に、大森由美さんには、長文の依頼となりました。

また、学校のご厚意により、これまでない特殊な環境の中、生き生きとした校内生活を送る在校生の写真を掲載することができました。

ウィズコロナの時代を生きるたくさんのヒントをいただきました。感謝申し上げます。

菅原 ゆり

編集委員

委員長 菅原 ゆり
佐藤 守
高樹 陽子
石塚 俊朗
須田 まき
北風 秀明
佐藤 英成